

---

# 魔法少女リリカルなのは 蒼き焔の龍神と星光を携えし少女

霧丸

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 蒼き焰の龍神と星光を携えし少女

### 【Nコード】

N13660

### 【作者名】

霧丸

### 【あらすじ】

作者が息抜きに「連載しようかな」

と考えている奴のブログのみを載せています

読者様の意見しだいで連載を行いますますがその際は文章が大幅に変更されと思います

あくまで 版なので

## （前書き）

少し息抜きに書いててみただけですので続きません

やってほしいといわれれば連載版を上げます

ブログのみですのできおつけてください

“ザアアアアアア”

雨が降っている…

天より降りし恵みを与え、時に災厄をもたらすそれは

今、俺の体を打ちつけ急速に体温を奪っていく…

もはや、起き上がるどころか視界も不確かなその状態で俺は神社の境内に横たわりその曇天を見上げている。

胸の真ん中よりやや左に位置する場所には人の腕ほどの風穴があきその風穴に納まっているはずの心臓はもう存在しない夥しい量の血液が溢れては雨によって流されていく…

血液と体温が不足し視界が失われつつある中俺の顔を覗き込む少女の顔がやけに鮮明に見える…

栗毛色の髪を左右で縛ったかわいらしいツインテールにした少女は雨でよくわからないが涙を流しているようにみえる。

「サヨナラ…みたいだね…」

「いやなの…こないやなの…」

今年で4つになる彼女は俺にそう告げるだがもはやどうしようもない。

「俺は…ゴフツ！…満足さ…君のおかげで…ゴフ…欠けていたものは埋まった…だからもう何もいらないんだ…」

肺を傷つけられたのか血を吐きだしそうになるがこらえて飲み干す、彼女を俺の贓物の混じった血で汚すわけにはいかない

「いやなの…またあの木の下で一緒にお昼ねしたいの…また子守唄歌ってほしいの…ずっと一緒にいたいの…だから、なのはを置いていかないで…」

雨に打たれながら少し舌つ足らずで俺にうつたいかける少女…彼女をみてこの半年の思い出が様々な光景が脳裡に浮かんでは消えていく…走馬灯というやつだろう。

彼女への気持ち溢れてくる其れに従い俺ができる最善を行う

「こ…これを…」

最期の力を振り絞り俺は、懷から二つの宝石を取り出し彼女に差し出す

「これは…？」

宝石を俺の手ごと握り締め彼女は問いかける

「“心燐”、其れに“ハトレスジュエル”…ゴフツ…いいかい心燐はいつか必ず君の求める君の力…ゴフツ…なるっ…もうひとつは…願えば俺と出会う前の君に戻る…」

「出会う前の…わたし…？そんなのいないの…！！なのははこれから一緒に行きたいの（生きたいの）…！！」

不確かな希望を与えるわけにはいかないと黙っていようと堪えてい

だが、可能性があるなら其れにかけてもいいじゃないか！！と俺の中に生まれた感情が暴れまわる

「…いつか…きつと…また出会えるさ…」

感情の本流にあらがえずに口にしてしまう。

「ほんとなの？」

「ああ、また出会える可能性はゼロじゃないよ…」

「どういふとなの？カノウセイってどういふことなの？」

「俺自身に…少し…細工をしておいた…うまくいけば…また一緒にいられるってことだよ…」

血がなくなつて来たのか視界は闇に包まれ…血を吐き出しそうになる感覚も消える…

「…少し長いお別れになるけど…いつかきつとまた出会える…」

「きつとじゃダメなの！！ゼツタイじゃないとだめなの！！！」

唯一の感覚となつた触覚で彼女が俺の手を握りしめる力が増したことを感じる

「そ…うか…絶対か…なら俺は…必ず帰ってこないとな…じゃあつともう…サヨナラの時間…だ…」

見えはしないが俺の体が光に変換され始める…

「サヨナラじゃないの！！また会ふの！！！！だから！サヨナラじゃ

ないの!!」

確かにそうだなこの別れは永遠にならないならサヨナラじゃないな

「そうか…そうだね…じゃあ…」

「またね!!!」

身体が弾けて光と成り消え去るその瞬間

俺の意識は消え長い永い眠りに就く、いつか再びまみえるその時を夢見て…

あれから数年の月日がたった

ふと私はあれから肌身離さず身につけている紅いまるで植物の種のような形をした宝石と丸い緑色の宝石をその手に取り見つめる…

あの後、父が倒れ大切な人の命が消えていくのを”また”黙って見ているしかないのはもういやだと心から思った…

だから私は、その時その人たちが助けるための力が欲しいと思ったそして私は医学の門をたくこととなった。

今は小学3年できることなど何もないかもしれないけどいつか…また…いつかあの人と再び出会えた時、胸をはってあの人を迎えられるように私は日々精いっぱい努力をして歩み続ける…

そんな日々の中で私は、あの人が使う力によく似たでも全く違う力と出会うこととなる

魔法少女リリカルなのは 蒼き焰の龍神と星光を携えし少女

(後書き)

感想もらえると作者が喜び

ひゃっはー！！！！ってなって続きを描くかもしれません



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1366o/>

---

魔法少女リリカルなのは 蒼き焔の龍神と星光を携えし少女

2010年10月27日04時06分発行